



元福岡地区に隣接する江川流域都市下水路も大きな被害を受けた

※ベタ基礎：建物の底板一面を鉄筋コンクリートで支える基礎

急がれる支援、水害への備えを

平成29年10月に発生した台風第21号は、本市に未曾有の被害をもたらしました。市議会
は、平成29年第4回定例会において、台風第21号による本市の被害状況とその対応の報告、
被災者を支援するための補正予算及び条例の一部改正について審議しました。

早期の復旧と今後に向けた万全な備えを

— 報告第26号 台風第21号による —

本市の被害状況とその対応について —



浸水被害を受けた元福岡地区

浸水被害の被災者への支援策

市内で浸水被害を受けた被災者を支援するた
めの補正予算が計上され、災害見舞金支給条例
の改正について審議されました。

**平成29年度一般会計
補正予算(第6号)
【全員賛成で可決】**

ベタ基礎等の床下浸水 の排水費用の一部助成

問 浸水住宅排水処理費
補助金について限度額を
3万円または請求金額の
2分の1とした根拠は。
答 ベタ基礎の一部を壊
し排水するケースは約

9万円かかると言われて
いる。一方で排水費用が
約1万円で済んだケース
もあり様々である。

滝ゲートポンプ増設工 事で浸水被害の軽減を

問 2カ年の継続事業で
ある。完成時期は。
答 平成30年の台風の時
期に間に合うようにと考
えている。
問 排水能力は。

答 1分間当たり60m³を
排水できる。

問 今回の滝、中丸地区
の浸水量は。
答 今後、内水解析を行
う。

問 内水解析が完了して
いない段階で、予算計上
する理由は。
答 ゲートポンプが特注
品で納品までに時間がか
かる。そのため、内水解
析と並行し、県との協議
を行っている。

災害見舞金支給条例 の一部改正 【全員賛成で可決】

見舞金を7万円に 引き上げ

問 災害見舞金が旧来の
4万円から7万円に引き
上げられ、床上浸水の被
災者へ支給される。
床下浸水の被災者へ支
給する考えは。
答 現在、全国的に床下
浸水の被災者への見舞金
を支給している事例がな
い。



滝、中丸地区の被害状況



水宮地区の被害状況

意見書 【全員賛成で可決】

復旧・復興への後押しを国へ要望

定例会の最終日、議員提出議案として「平成29年台風第21号による浸水被害に関する意見書」が提出され、審議の結果全員賛成で可決されました。

意見書の内容は、先般の台風による浸水被害者への支援や被害からの復旧・復興事業に対する財政支援、そして新河岸川の河川整備の推進などについて、国からの支援を求める内容になっています。

意見書は平成29年12月15日付けで国の関係省庁に送付しました。

●意見書の全文は市議会ホームページまたは議会図書室で閲覧することができます。

●ホームページへのアクセスはこちらのQRコードから。



原因の究明を

問 元福岡地区の浸水被害の原因は。
答 10月22日の総雨量が148mmと大量の雨が降ったところに、23日深夜からの豪雨により新河岸川の水位が急上昇したため、江川流域都市下水路の樋門が閉鎖された。その後も雨が降り続き、内水位が上昇し被害が発生したと推測される。

詳細は川越市と設置する第三者検証委員会で検証する。

問 滝、中丸、水宮、川崎の各地区の検証はどのように行うのか。
答 内水解析による分析を行い、浸水被害の防止に努める。

問 今後の対策は
答 元福岡地区については、第三者検証委員会な

災害時の市の 対応は

問 災害対策本部はいつ設置されたのか。
答 台風の接近に備え、前日の10月21日から警戒体制を取り情報収集に努めていた。台風が勢力を保ったまま接近することが予想されたため、早期に非常体制に移行し、22日午後3時に災害対策本部を設置した。

問 避難に際して、要配慮者への対応は。
答 10月22日午後2時30分の上福岡公民館を避難所として開設した。午後6時40分に関係自治組織の会長へ連絡するとともに、防災行政無線で避難準備・高齢者等避難開始を発令し、避難を呼びかけた。

問 設備等のハード面での対策をどのように考えているか。
答 元福岡地区については、第三者検証委員会な

問 今後の対策は
答 元福岡地区については、第三者検証委員会な

問 今後の対策は
答 元福岡地区については、第三者検証委員会な

問 今後の対策は
答 元福岡地区については、第三者検証委員会な

問 今後の対策は
答 元福岡地区については、第三者検証委員会な

問 今後の対策は
答 元福岡地区については、第三者検証委員会な

問 今後の対策は
答 元福岡地区については、第三者検証委員会な

問 今後の対策は
答 元福岡地区については、第三者検証委員会な

どの意見を基に浸水対策案を検討していきたい。また、江川流域都市下水路から直接、新河岸川に排水できるようなポンプ施設や調整池の築造などを県や国と協議をしていきたい。

滝、中丸地区については、新河岸川に接続している雨水幹線のポンプゲートを改良し、排水能力を強化していく。

水宮、川崎地区については、臨時ポンプの保有数を増やし、緊急時のポンプ設置箇所の増加を検討し、浸水被害の軽減を図る。また福岡江川雨水幹線の上流域に今後も雨水貯留浸透施設を設置する。

- ◆報告第26号に対する質疑
- 青 藍 会 大 築 守 議 員
 - 青 藍 会 山 田 敏 夫 議 員
 - 日 本 共 産 党 床 井 紀 範 議 員
 - 公 明 党 川 畑 京 子 議 員
 - 信 政 会 鈴 木 啓 太 郎 議 員
 - 信 政 会 谷 新 一 議 員
 - 無 所 属 民 部 佳 代 議 員